

10月22日（土）に、野田中学校では「校内合唱コンクール」を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体育館で各学年ごとの開催とした。歌うときもマスクをしたままだった。上級生の姿を少しでも見せたいと、1年生は2年生の合唱を、2年生は3年生の合唱を聞くことができるようにした。

久しぶりの校内合唱コンクールだった。懐かしさとともに昔のことが蘇ってきた。合唱は、1年生よりも2年生、2年生よりも3年生と、わかりやすくレベルが上がる。3年生の合唱は、やはり違う。特に、男子生徒の歌声が際立つ。3年生の4クラスの合唱は、それぞれの持ち味が発揮され、クラスの和を感じさせるものだった。

本校では、3年生の最優秀賞に輝いたクラスが、11月11日（金）に開催される「福島市学校総合文化祭音楽発表会」に参加するようになる。そこで、3年生の審査は、外部講師にお願いしてあった。その講師は、昔の私の同僚であり、隣のクラスの先生だった。審査だけでなく講評もお願いした。

その講評は、講評というレベルではなかった。その先生は、会場の生徒たちを教育し、保護者へはメッセージを発信し、我々教員をねぎらってくださいました。生徒の歌声に涙したが、その先生の講評というか音楽教師としての思い、教育者としての姿勢に涙した。

見事、最優秀賞の栄冠を勝ち取ったクラスの曲は、「Y E L L」だった。NHK全国学校音楽コンクール中学校の部課題曲であり、いきものがかりの代表曲の一つである。この曲が世に出たとき、私は全国合唱コンクールで3位になるような合唱部をもつ中学校に勤務していた。体育館で、その合唱部が「Y E L L」を披露したときの衝撃は今でも覚えている。ぞくぞくっと鳥肌が立ち、ざわざわとした。そして、しばらくすると涙があふれてきた。そこには、理屈などなかった。体で歌声を受け止め、感動に震えていた。

最優秀賞のクラスが、夢の音楽堂の舞台に立った。みんな緊張しながらもいい表情である。保護者もたくさん来てくださった。ピアノ伴奏が始まった。すぐに涙腺は崩壊した。3年生はどのクラスも、もともと男子生徒の人数が少ない。にもかかわらず、見事な歌声が会場いっぱいに響く。それをリードする女子生徒の素敵な歌声も冴えわたっていた。指揮者も、かっこいい。

会場を出ると、この行事を取り仕切る担当者が立っていた。昔の同僚である。マスクの上の目元から疲れの色が見えた。その彼女が「野田中の『Y E L L』からエールをもらいました」と言ってくれた。そうである。3年生の生徒たちの合唱には、それだけの力がある。保護者の皆さんも笑顔で満足そうに会場を後にしていた。

私は、約2か月にわたり、この「Y E L L」を聞かせてもらった。なぜなら、最優秀賞のクラスは、校長室のすぐ近くのクラスだったのである。教室での練習のときからよく聞こえていた。放課後になると聞こえてくる「Y E L L」のおかげで、いい時間を過ごさせてもらった。感謝である。